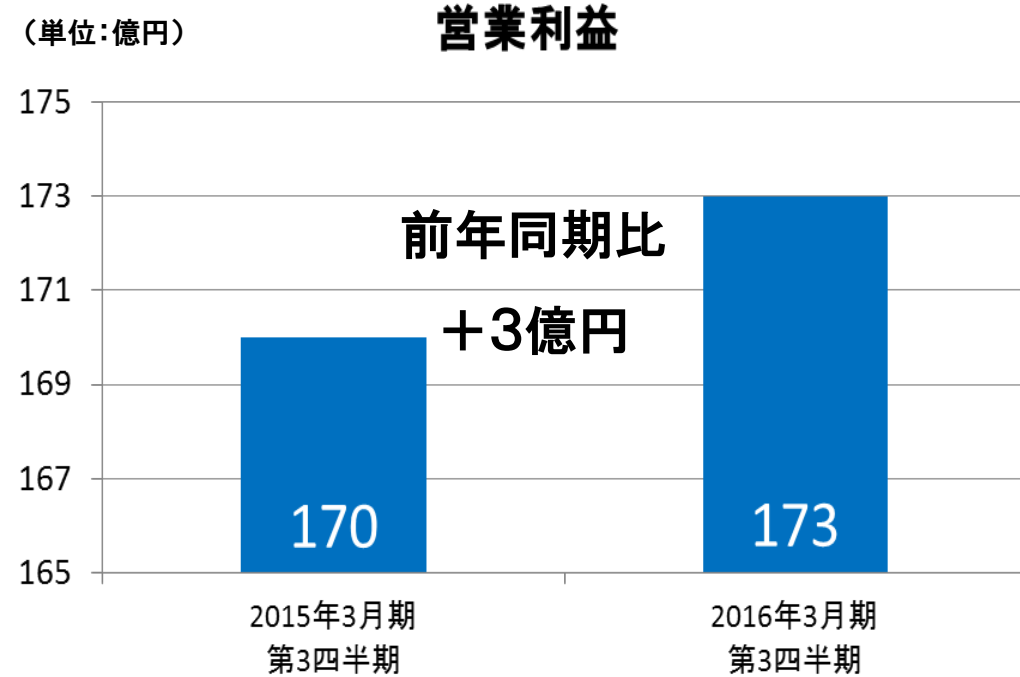
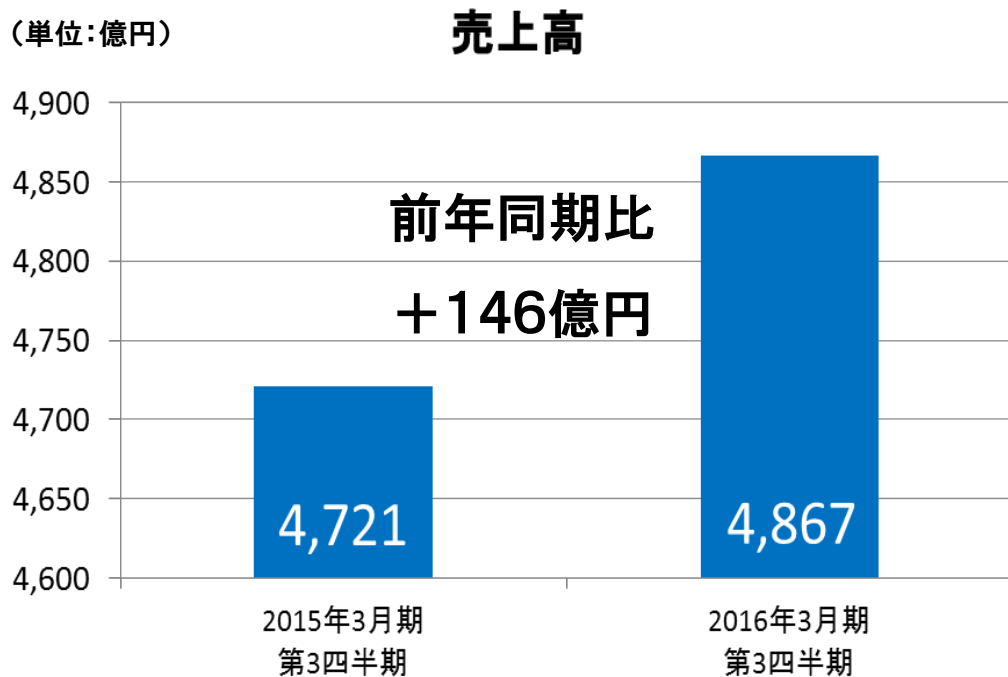




2016年3月期 第3四半期決算 決算短信補足資料

2016年2月5日
日本水産株式会社

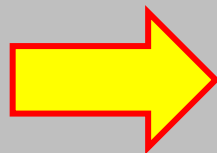
◆海外は北米、ヨーロッパが順調に推移する一方、南米は減益幅が拡大
国内は食品事業の利益が伸長し、水産事業も堅調に推移



【年間見通しに対する進捗率】

売上高:76.5%

営業利益:102.0%



中期経営計画MVIP2017の初年度は売上高・営業利益ともに順調に推移

◆水産事業の減収・減益を食品事業がカバー

(単位:億円)	2016年3月期	2015年3月期	対前年同期比		2016年3月期	年間見通しに対
	第3四半期	第3四半期	増減額/率(%)		※年間見通し	する進捗率(%)
売上高	4,867	4,721	146	103.1%	6,360	76.5%
水産事業	2,082	2,106	▲ 23	98.9%	2,694	77.3%
食品事業	2,328	2,207	121	105.5%	3,019	77.1%
ファインケミカル事業	189	187	2	101.2%	265	71.5%
物流事業	116	108	7	107.1%	157	73.9%
その他	149	111	38	134.4%	222	67.1%
営業利益	173	170	3	101.8%	170	102.0%
水産事業	45	74	▲ 29	60.5%	28	157.4%
食品事業	90	61	28	147.2%	95	94.7%
ファインケミカル事業	35	36	▲ 1	96.1%	45	77.8%
物流事業	15	13	1	113.5%	18	86.4%
その他	5	5	0	106.3%	7	70.8%
全社経費	▲ 18	▲ 21	2	86.5%	▲ 25	73.5%
経常利益	188	207	▲ 18	90.9%	185	102.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	112	105	6	106.5%	105	107.0%
EPS(1株当たり純利益)	40.67円	38.19円	-	-	38.01円	-

※2016年3月期年間見通しのセグメント別計画は、第2四半期決算発表時に修正した計画値

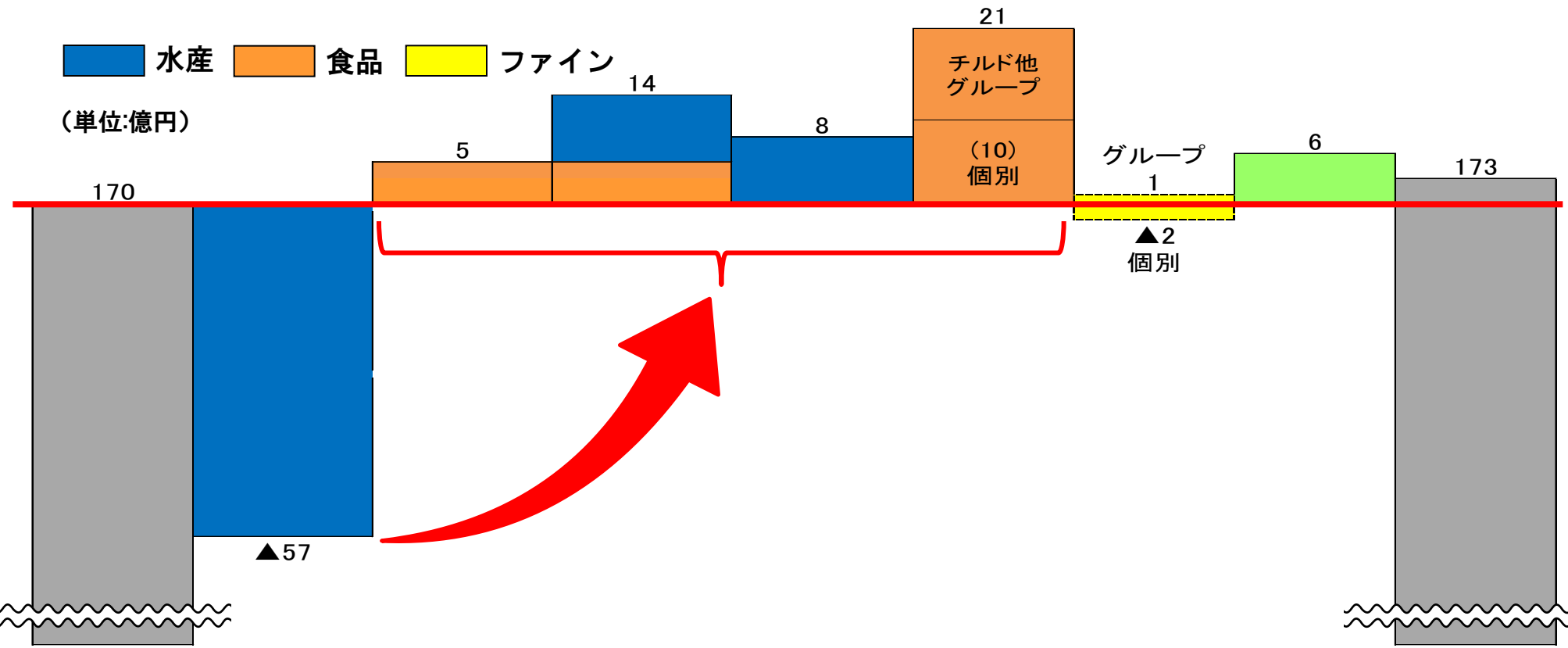
第3四半期決算(累計)は南米の鮭鱒養殖事業が苦戦しましたが、好調な食品事業等でカバーしたことから、年間の見通しをほぼ前年並みまで上方修正しました。

(単位:億円)	2015年3月期 年間実績	売上高比	2016年3月期 期初計画値	売上高比	2016年3月期 修正計画値	売上高比
売上高	6,384		6,360		6,400	
営業利益	181	2.8%	170	2.7%	180	2.8%
経常利益	213	3.4%	185	2.9%	200	3.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	102	1.6%	105	1.7%	115	1.8%

(単位:億円)	前年対修正計画 増減額/率	期初計画対修正計画 増減額/率	2016年3月期 第3四半期実績	売上高比
売上高	16 100.3%	40 100.6%	4,867	
営業利益	▲1 99.4%	10 105.9%	173	3.6%
経常利益	▲13 93.9%	15 108.1%	188	3.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	13 112.7%	10 109.5%	112	2.3%



◆前年同期比で営業利益は微増(+3億円)。南米は鮭鱒の販売価格下落により大幅な減益となったが、北米・アジア・ニッスイ個別を含む国内の水産・食品でカバー



(主な増減要因)

2015年3月期 第3四半期 営業利益	海外			国内			連結調整 の好転	2016年3月期 第3四半期 営業利益
	<南米> 養殖鮭鱒のコスト増と販売価格下落に加え、南だらの漁獲低調等	<北米> 業務用冷凍食品事業順調	<アジア> 原料価格低下により業務用食品加工事業が好調、前年の貸倒引当金計上がなくなったことによる収益改善	<水産> すりみ・魚粉の販売価格が堅調、グループでの原料買付加工品のアジ原料価格低下等	<食品> ニッスイ個別は業務用・農産冷凍食品が好調、チルド事業も順調	<ファイブ> 後発品使用促進策による販売数量減少等		

2016年3月期 第3四半期(累計) セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



◆エリア別では日本、北米、事業別では食品が大きく増収

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,679 (22)	423 (90)	166 (▲53)	63 (▲59)	362 (▲6)	2,696 (▲5)	▲613 (▲17)	2,082 (▲23)
	1,657	333	219	123	368	2,702	▲595	2,106
食品事業	2,468 (103)	489 (53)		57 (3)	161 (20)	3,175 (180)	▲846 (▲58)	2,328 (121)
	2,365	435		53	140	2,995	▲787	2,207
ファイン事業	203 (4)			2 (0)		206 (4)	▲16 (▲2)	189 (2)
	199			2		201	▲14	187
物流事業	208 (31)					208 (31)	▲92 (▲23)	116 (7)
	177					177	▲68	108
その他事業	206 (60)			1 (0)		207 (60)	▲58 (▲22)	149 (38)
	146			1		147	▲36	111
仮計	4,767 (221)	913 (144)	166 (▲53)	123 (▲55)	523 (14)	6,494 (270)		
	4,545	768	219	179	509	6,223		
連結調整	▲1,232 (▲116)	▲180 (▲35)	▲127 (22)	▲80 (5)	▲6 (▲0)		▲1,627 (▲124)	
	▲1,115	▲144	▲149	▲86	▲5		▲1,502	
連結計	3,534 (104)	732 (108)	39 (▲31)	43 (▲49)	517 (13)			4,867 (146)
	3,429	624	70	92	503			4,721

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲27億円 (PESANTAR)

※新規連結会社の影響額 +26億円 (東京水産運輸、CAP OCEAN、稚内東部)

※為替換算による売上高への影響額(試算) +74億円

2016年3月期 第3四半期(累計) セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

◆エリア別では南米の減益が大きいが、食品事業を中心に他のエリア・事業でカバー

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	36 (8)	17 (2)	▲17 (▲57)	0 (8)	7 (▲0)		44 (▲38)	0 (9)	45 (▲29)
	28	15	39	▲8	7		83	▲8	74
食品事業	56 (21)	13 (2)		7 (5)	14 (1)		91 (29)	▲1 (▲1)	90 (28)
	34	11		2	13		61	▲0	61
ファイン事業	34 (▲1)			0 (0)			34 (▲1)	0 (▲0)	35 (▲1)
	35			0			36	0	36
物流事業	15 (2)						15 (2)	▲0 (▲0)	15 (1)
	13						13	0	13
その他事業	6 (1)			▲0 (▲0)			6 (1)	▲0 (▲1)	5 (0)
	4			0			4	0	5
全社経費						▲19 (2)	▲19 (2)	0 (0)	▲18 (2)
						▲21	▲21	0	▲21
仮計	149 (32)	31 (5)	▲17 (▲57)	8 (14)	21 (0)	▲19 (2)	174 (▲3)		
	117	26	39	▲5	21	▲21	177		
連結調整	▲0 (▲1)	▲0 (▲0)	2 (5)	▲0 (▲0)	▲1 (3)	0 (0)		▲0 (6)	
	1	0	▲2	▲0	▲5	▲0		▲7	
連結計	149 (30)	30 (4)	▲15 (▲52)	7 (14)	19 (3)	▲18 (3)			173 (3)
	119	26	37	▲6	16	▲22			170

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。
 ※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。
 ※連結除外会社の影響額 ▲4億円 (PESANTAR 他)

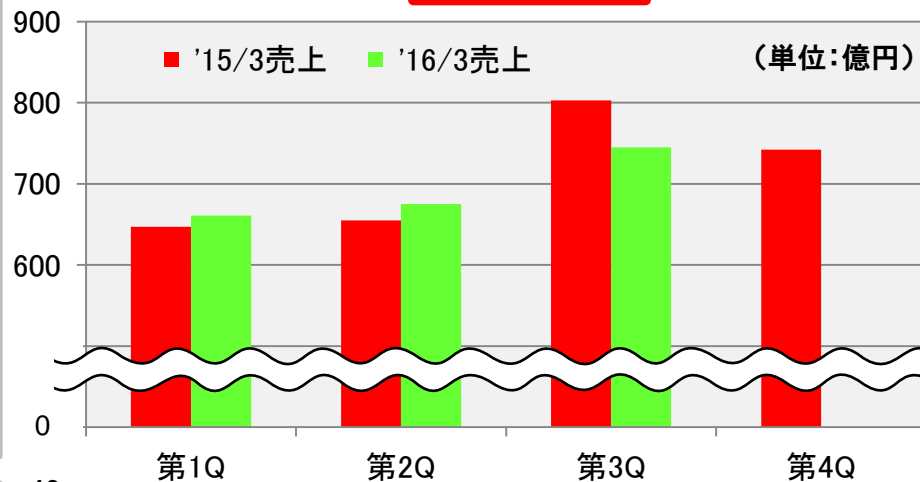
◆国内は適正な仕入と在庫コントロールを行い、順調に推移

(単位: 億円)	2016年3月期 第3四半期	2015年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	
売上高	2,082	2,106	▲ 23	98.9%
営業利益	45	74	▲ 29	60.5%
営業利益率	2.2%	3.6%	-	-

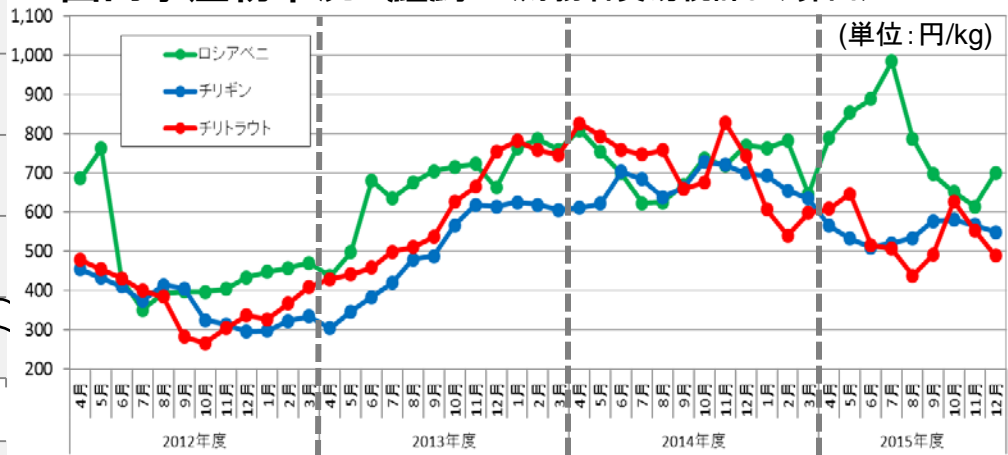
2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
2,712	76.8%
33	137.4%
1.2%	-

年間見通しの数値は、第3四半期決算発表時の修正公表値(次頁以下同様)

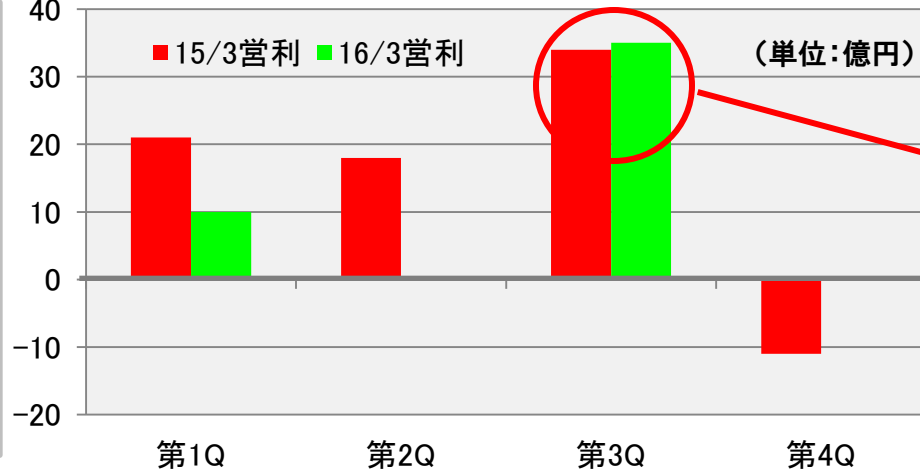
売上高



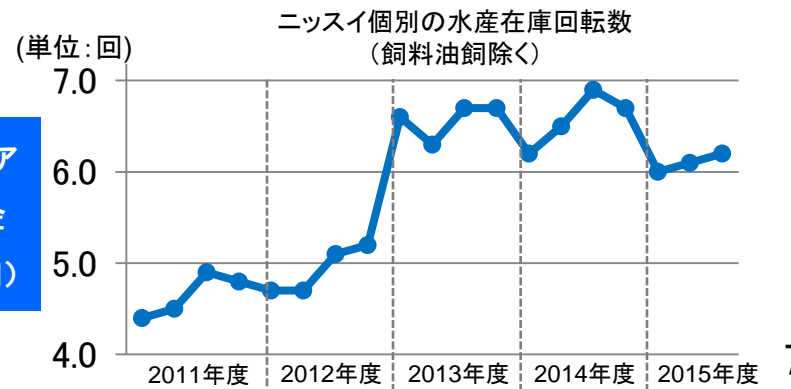
<国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)>



営業利益



前年度はアジアで貸倒引当金計上(▲11億円)



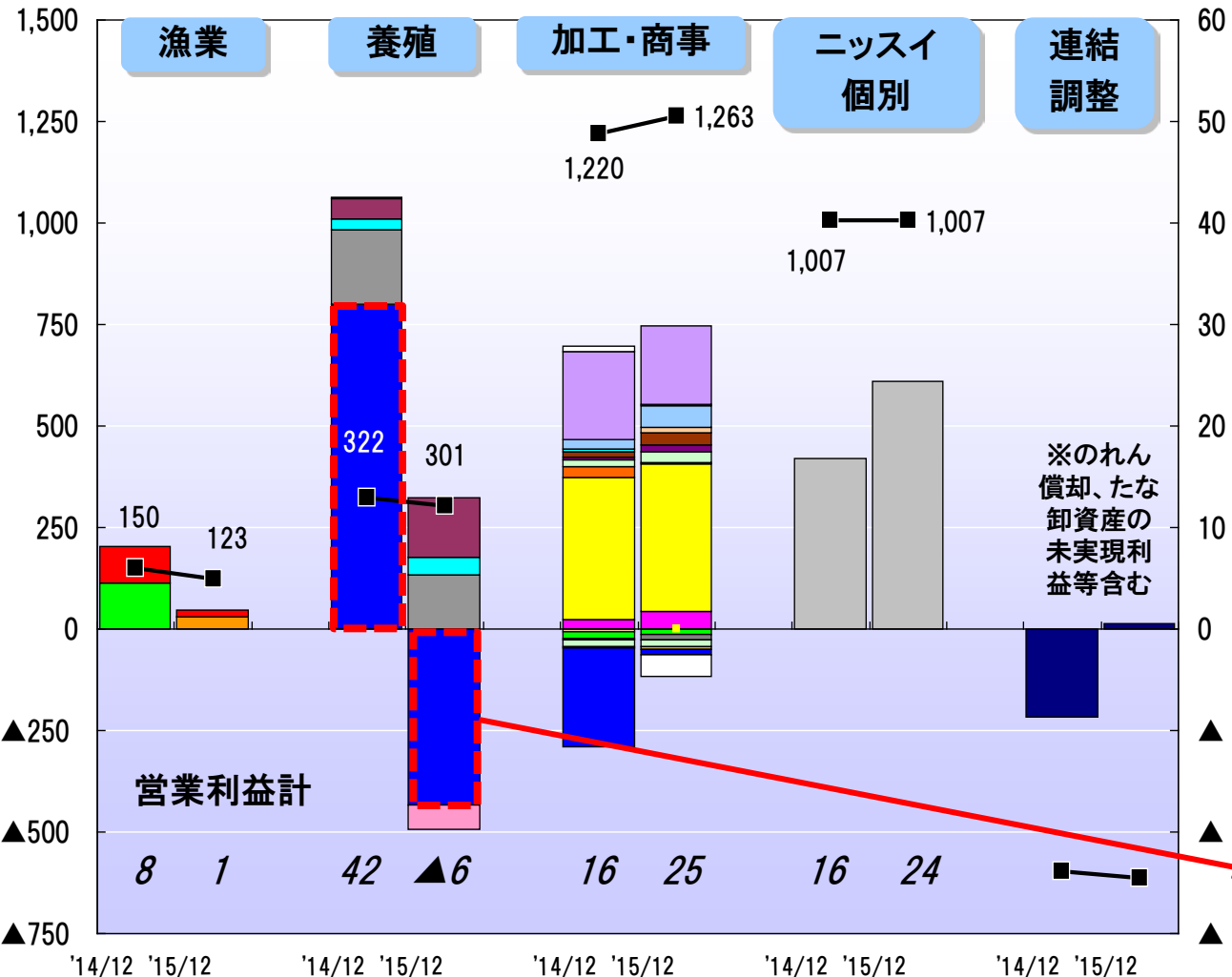
水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)



主な増減要因

【漁業】

・南米:ほき、南だらの漁獲が低調に推移し、販売数量減少

【養殖】

・国内養殖事業

ぶり:「若ぶり」販売数量大幅増加するも、販売価格が弱含みで推移し、飼料高騰で生産コストも上昇
まぐろ:販売数量減少するも、販売価格は年末まで堅調に推移

あじ:原料買付加工品のあじ原料価格が低下したこともあり、好調に推移

・チリの鮭鱒養殖事業

飼料高騰による生産コストの上昇や魚病の影響に加え、販売価格が大きく下落

【加工・商事】

・アメリカのすけそうだら事業

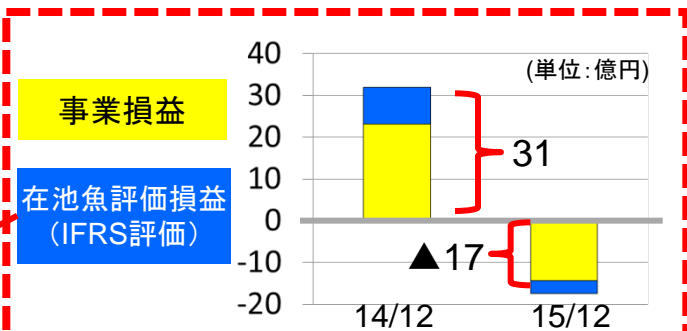
フィレの販売数量と助子の生産量が減少するも、すりみの増産に加え、販売価格も上昇

・欧州:販売伸長するも、ユーロ安の影響による仕入価格上昇

※のれん償却、たな卸資産の未実現利益等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

南米の鮭鱒養殖事業では、国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、水産事業セグメントの営業損益に計上しております。

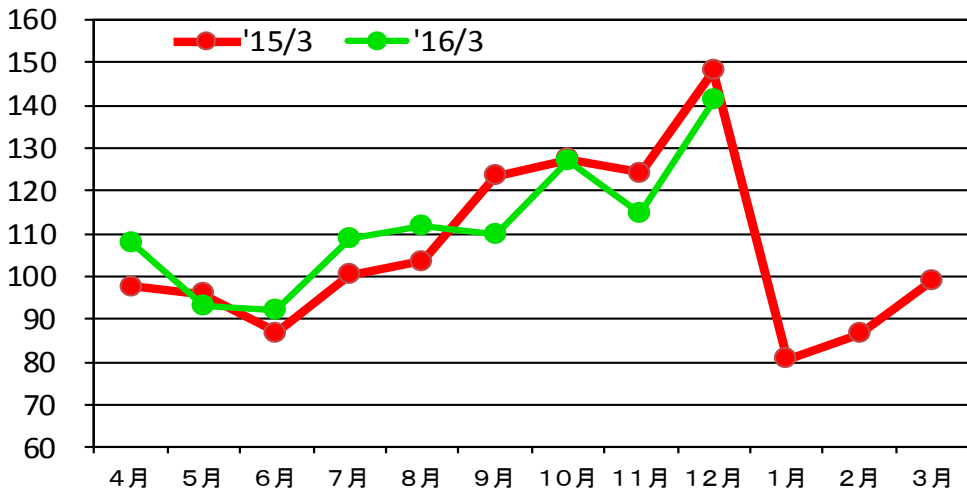




◆すりみ・魚粉の販売価格が上昇

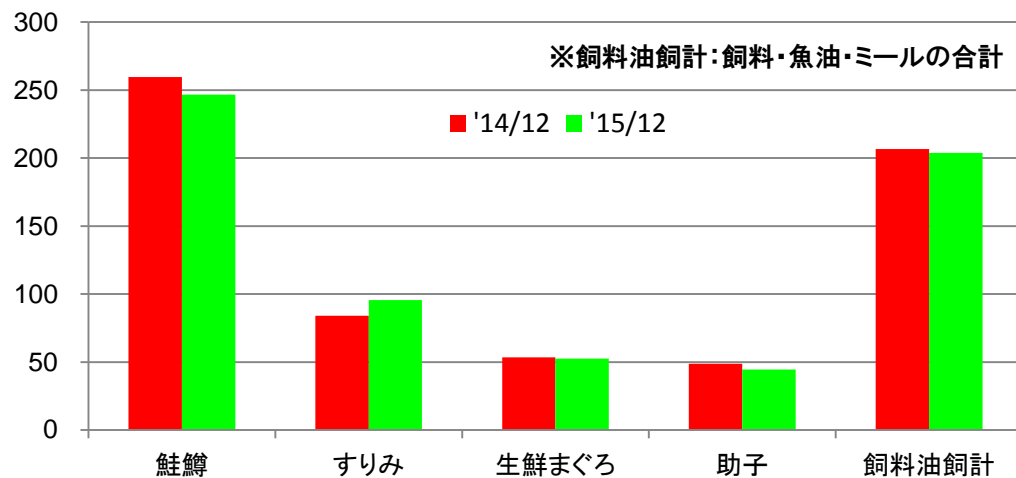
<売上高(月別)>

(単位:億円)



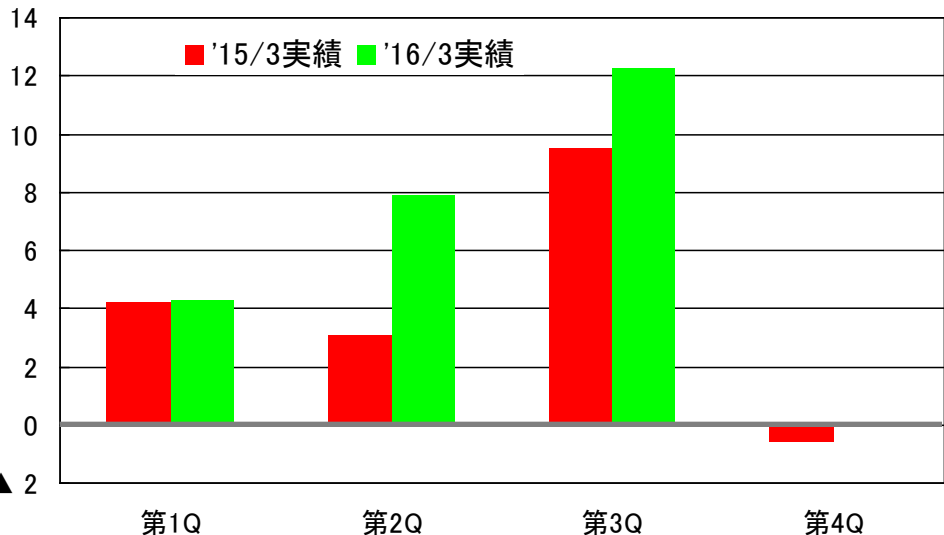
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



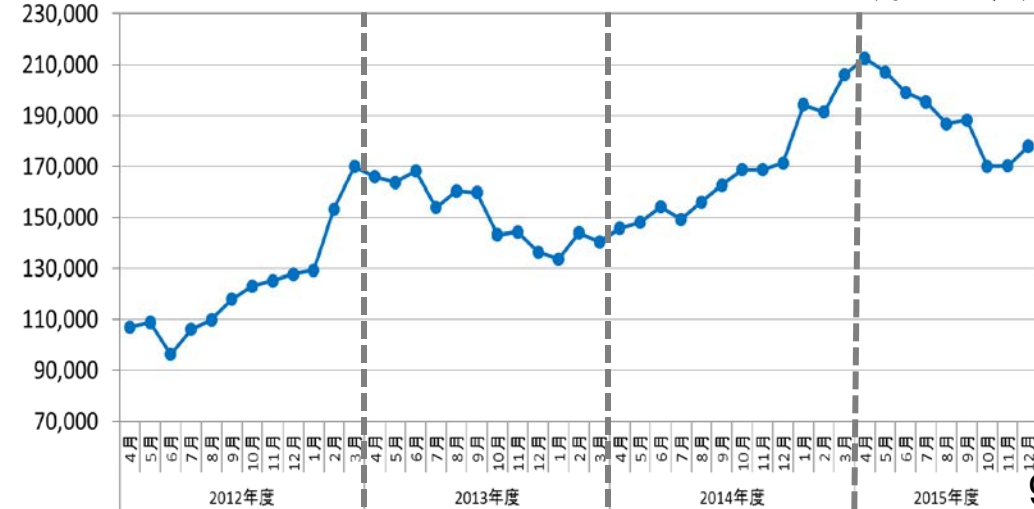
<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



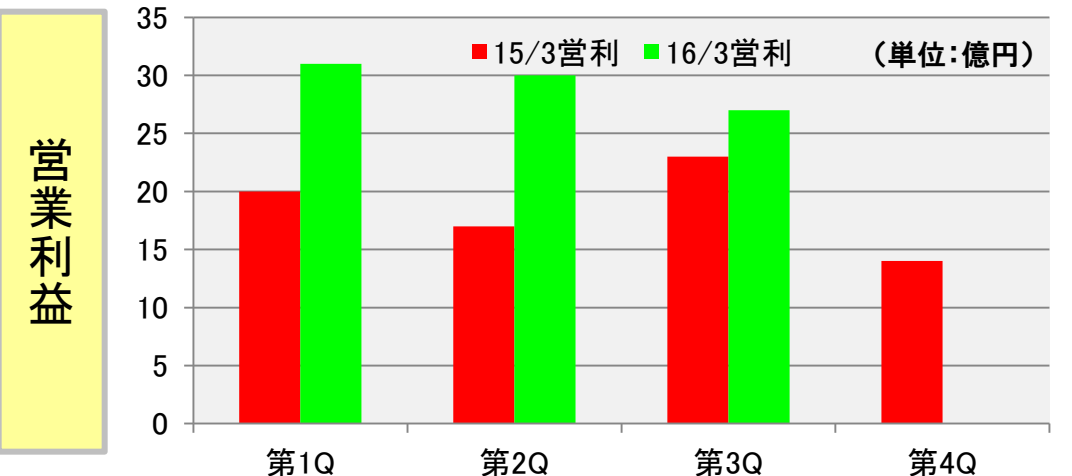
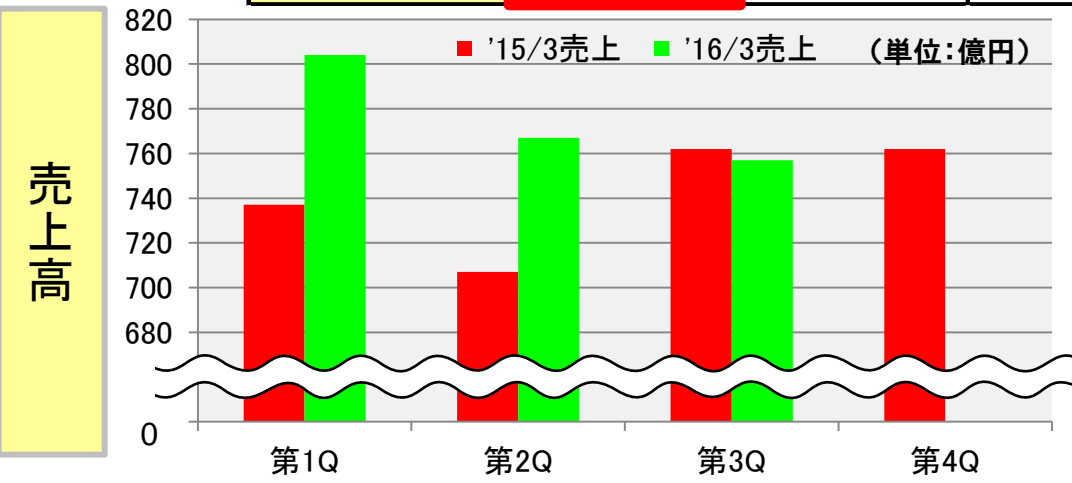
<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

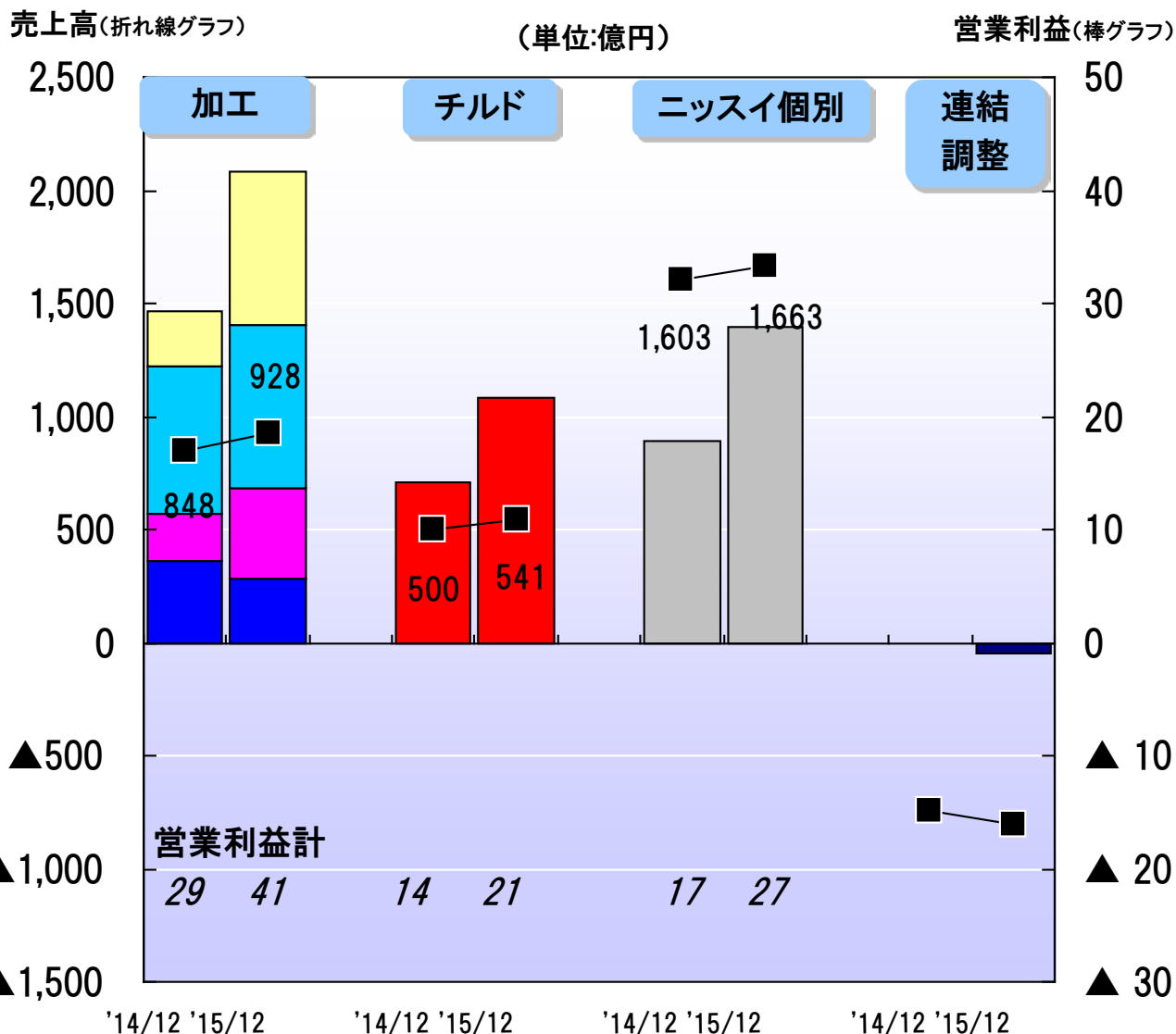
(単位:円/t)



◆全エリアとも増収・増益

(単位: 億円)	2016年3月期 第3四半期	2015年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	2,328	2,207	121	105.5%	3,078	75.7%
営業利益	90	61	28	147.2%	99	91.1%
営業利益率	3.9%	2.8%	-	-	3.2%	-





主な増減要因

【加工】

- ・北米
 - 家庭用冷凍食品会社:工場集約などにより収支改善するも、市場競争が厳しく減益
 - 業務用冷凍食品会社:原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
 - 新たに生産ラインを増強するとともに、水産チルド品を中心に販売数量が増加
- ・日本
 - えび、白身魚の業務用食品加工事業において、原料のえびの価格が下がったこともあり、好調に推移

【チルド】

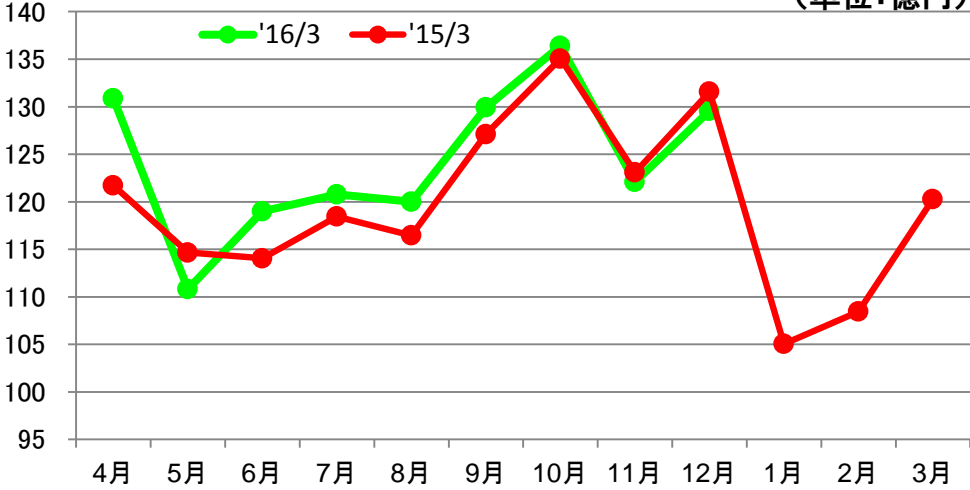
- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上など

※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

◆円安に加えすりみの原料コスト高の影響も続いたが、価格調整等もあり業務用冷凍食品や農産冷凍食品などが好調

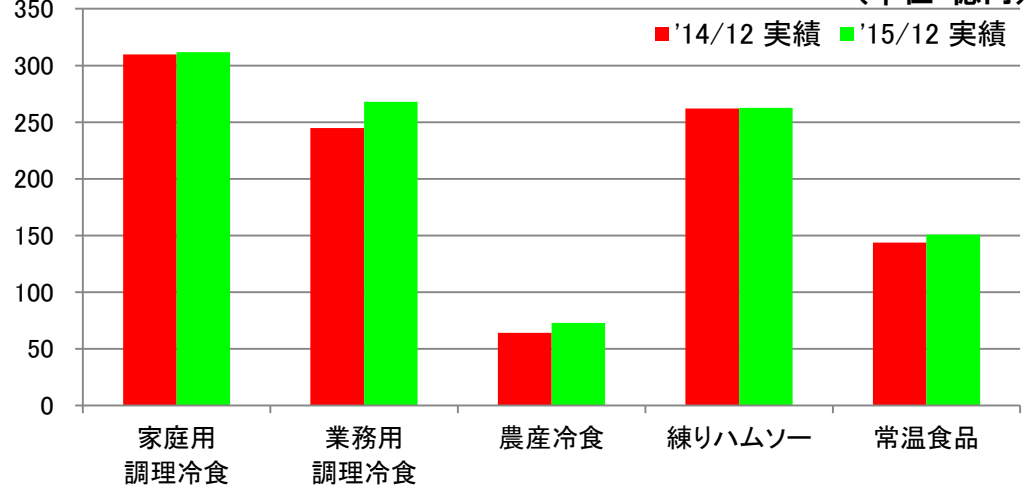
＜売上高(月別)＞

(単位:億円)



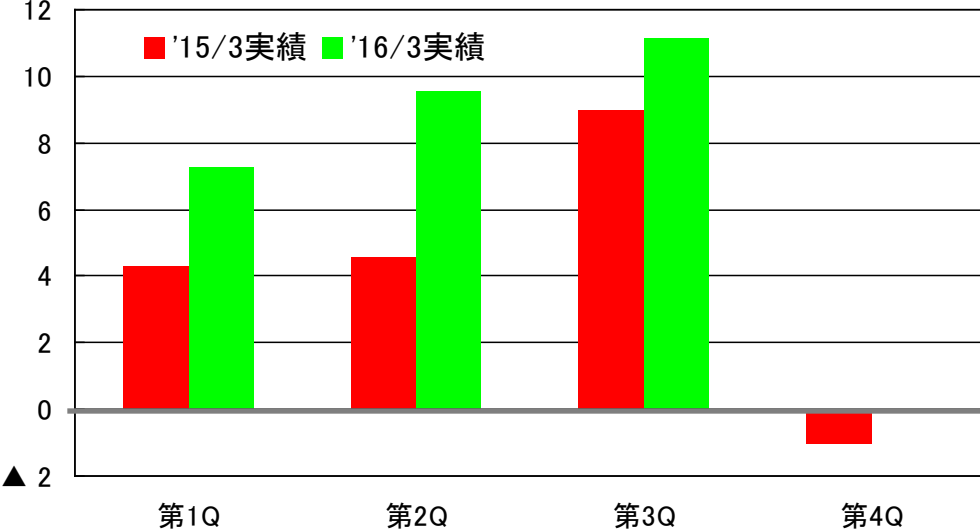
＜カテゴリ別 売上高(前年同期比)＞

(単位:億円)



＜営業利益(四半期別)＞

(単位:億円)



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞



◆後発品使用促進策等の影響により、前年からの伸長なし

(単位: 億円)	2016年3月期 第3四半期	2015年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	189	187	2 / 101.2%	261	72.7%
営業利益	35	36	▲1 / 96.1%	45	78.0%
営業利益率	18.5%	19.5%	- / -	17.2%	-

主な増減要因

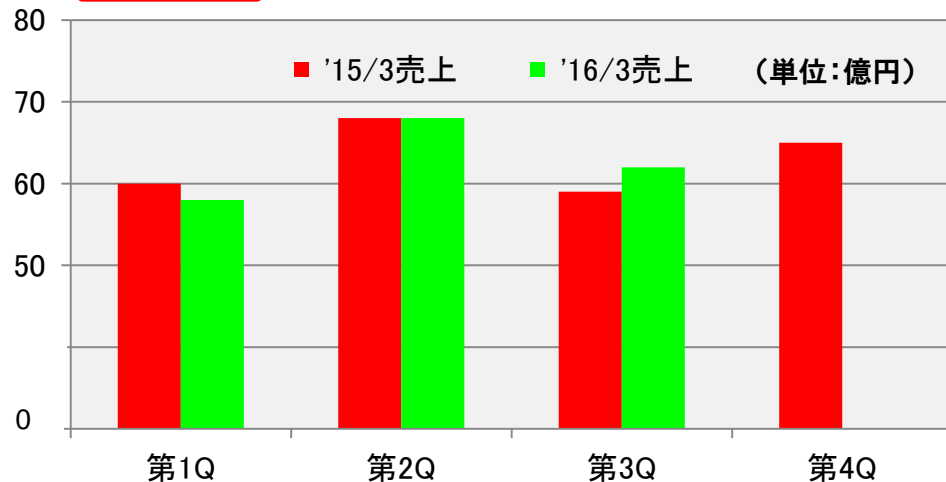
【ニッセイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

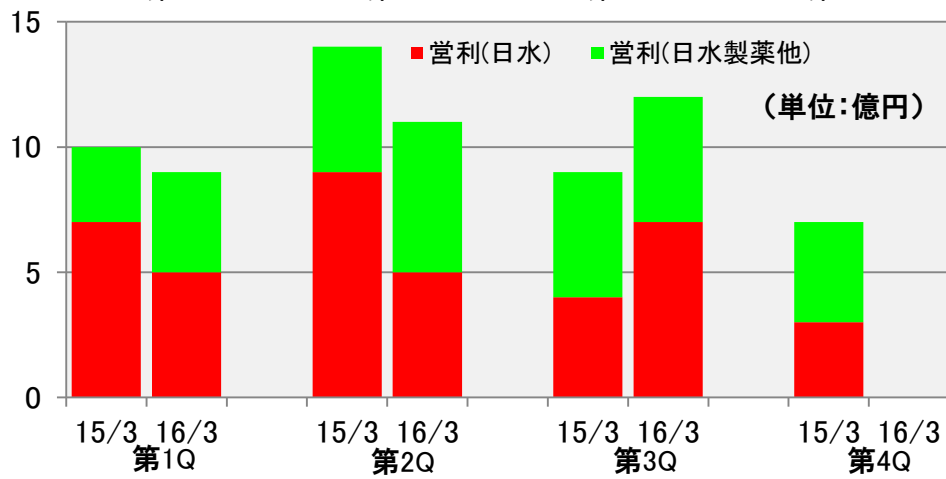
【グループ】

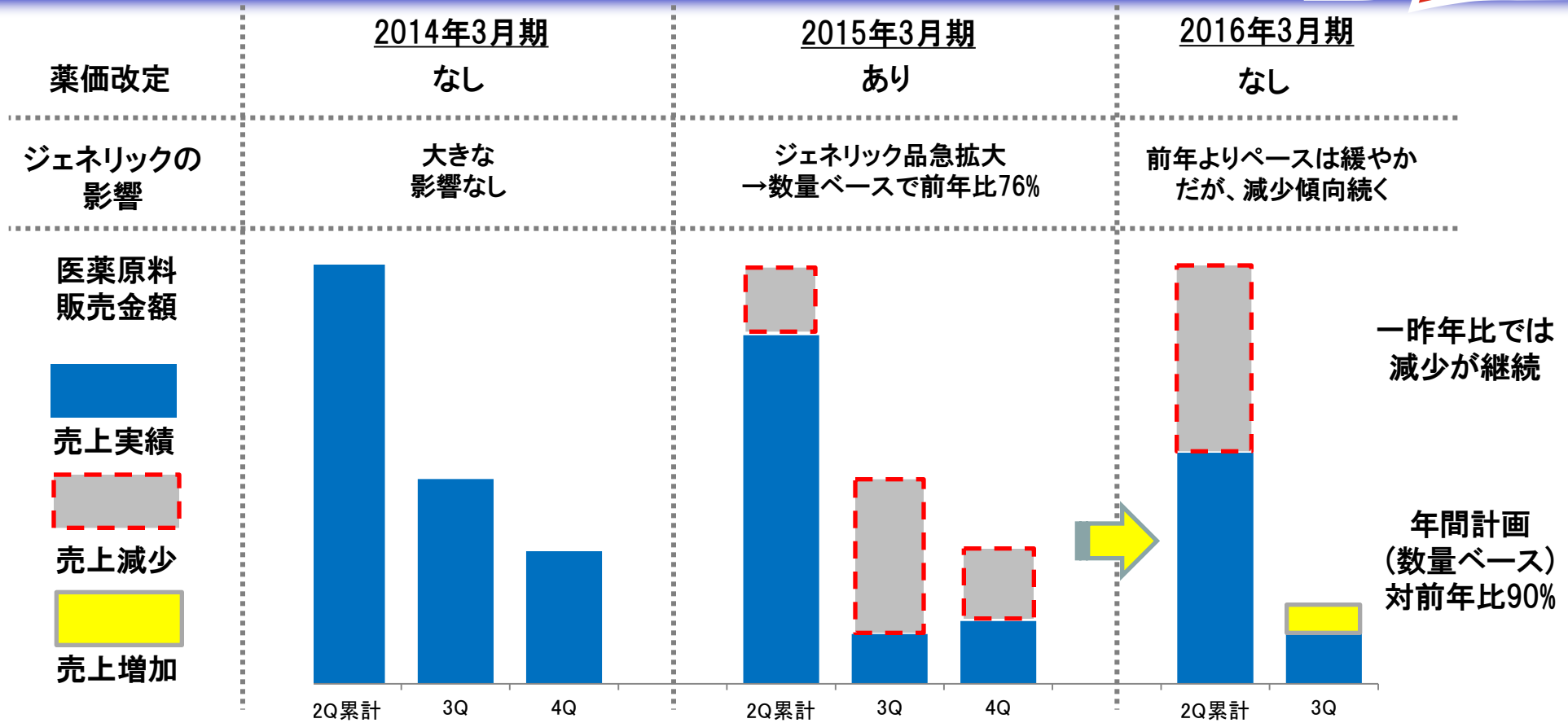
- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売堅調

売上高



営業利益





<医薬原料:前年同期比 ▲約4億円減益>
前年度のジェネリック品の伸長からシェア回復に苦戦

<機能性食品:前年同期比 約2億円増益>
休眠顧客呼び戻し(DM)実施、広告宣伝媒体の見直し
※申請中の機能性表示食品は、未だ消費者庁の受理待ち

<機能性原料:前年同期比 約1億円増益>
EPA・DHAの原料販売増加(機能性表示食品等)
売上高は対前年同期比で約120%

<研究開発費:前年同期比 ▲約2億円減益>
将来の成長に向けた研究開発費の投入

<既存の鹿島工場>

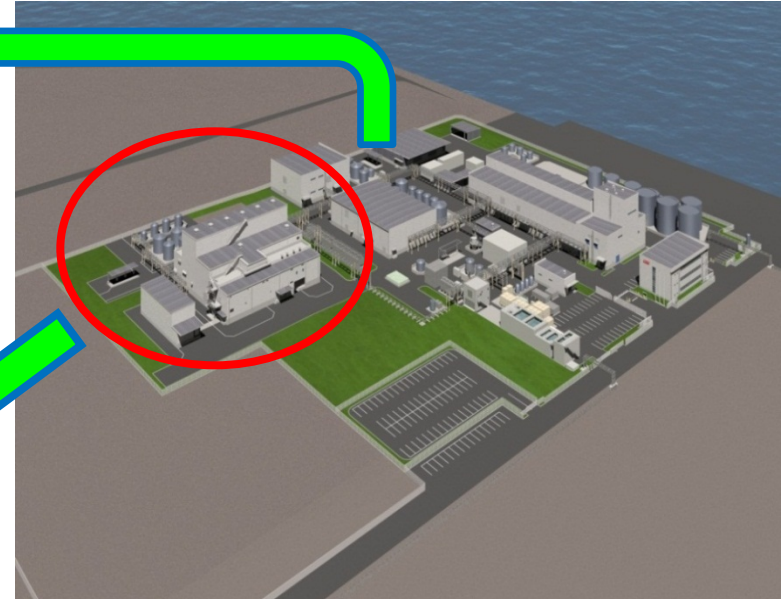
- ①EPA医薬原料
- ②食品向け素材として機能性脂質(EPA・DHA)
- ③化粧品素材としてオレンジラフィー油等幅広く生産

<新設の鹿島医薬品工場>

設備投資額:80億円 稼働予定:2018年

医薬原料としてのEPA生産に特化
⇒医薬品原料生産能力倍増:約420トン/年間

- ・海外輸出を視野に入れた、cGMP基準対応
- ・魚油からの高いEPA回収率を実現し、低EPA含有濃度の原料からの高純度EPAの製造が可能



※丸囲みが「医薬品工場」、そのほかは既存工場

世界一のEPA原体メーカー
を目指し、ファイン
ケミカル事業の体質強化

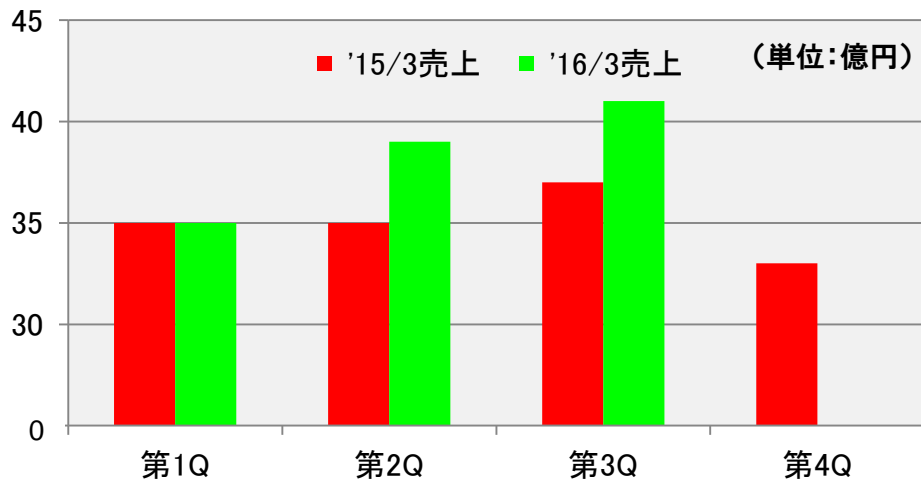
◆前年同期比でほぼ横ばいで推移

(単位:億円)	2016年3月期 第3四半期	2015年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	116	108	7	107.1%	160	72.9%
営業利益	15	13	1	113.5%	19	83.3%
営業利益率	13.6%	12.8%	-	-	11.9%	-

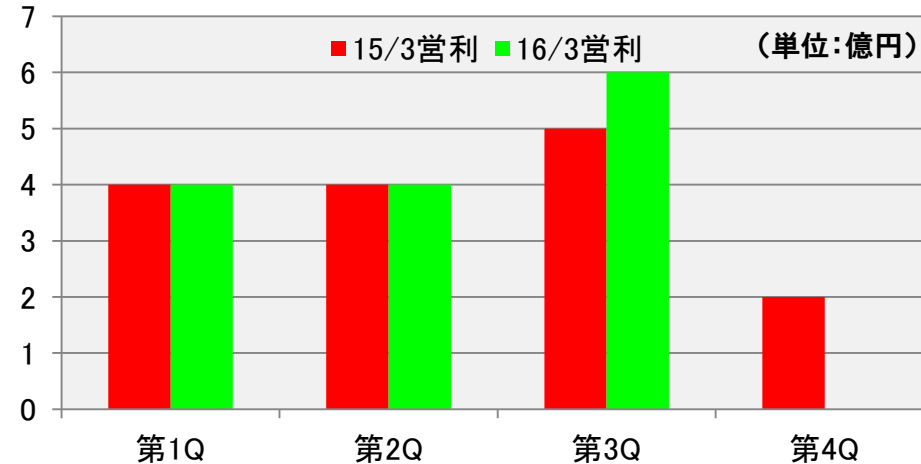
主な増減要因

- ・冷蔵倉庫事業:首都圏の庫腹量増加等もあり、保管料収入増加
- ・配送事業:運送貨物の取扱量減少

売上高



営業利益



日水物流・大阪舞洲物流センター全体パース図
(2016年3月完成予定)

2016年3月期 第3四半期(累計) 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2016年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,867		4,721		146	3.1
売上総利益	1,030	21.2	1,014	21.5	16	1.6
販売費・一般管理費	857		843		13	
営業利益	173	3.6	170	3.6	3	1.8
営業外収益	44		64		▲20	
営業外費用	28		27		1	
経常利益	188	3.9	207	4.4	▲18	▲9.1
特別利益	16		4		11	
特別損失	11		25		▲13	
税金等調整前四半期純利益	193	4.0	186	4.0	7	3.8
法人税等	51		43		7	
法人税等調整額	19		26		▲6	
四半期純利益	122		116		5	
非支配株主に帰属する四半期純利益	9		10		▲0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	112	2.3	105	2.2	6	6.5

主な増減要因

【営業外収益・費用】

- 為替差益 約5億円減少
- 投資有価証券売却益 約4億円減少
- 持分法による
投資利益 約4億円減少 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益 約14億円
- 投資有価証券評価損 約4億円
- 土地減損損失 約3億円

2015年3月期(前期)

- 関係会社株式売却損 約11億円
- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失
約8億円

2016年3月期 第3四半期(累計) 連結貸借対照表(前期末比)

流動資産 2,444 (+127)	流動負債 2,292 (+169)
	固定負債 1,341 (▲85)
固定資産 2,286 (+10)	純資産 1,096 (+54)
総資産 4,731 (+138)	うち自己資本 906 (+53) <i>自己資本比率 19.2%</i>

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+138	流動資産	+127	現金及び預金	▲13
				受取手形及び売掛金	+157
				原材料及び貯蔵品	▲17
		固定資産	+10	有形固定資産	+19
				無形固定資産	▲10
負債	+84	流動負債	+169	支払手形及び買掛金	+76
				短期借入金	+53
				未払費用	+50
		固定負債	▲85	長期借入金	▲86
		純資産	+54	利益剰余金	+106
				その他有価証券評価差額金	+8
				繰延ヘッジ損益	▲11
				為替換算調整勘定	▲44
				退職給付に係る調整累計額	▲5

自己資本比率 '15/3 18.6% → '15/12 19.2%

()内の数字は前期末比増減

2016年3月期 第3四半期(累計)
 連結キャッシュフロー(前年同期比)



◆たな卸資産圧縮等により営業CFが大幅増加(+117億円)。
 ⇒日本クッカーの新工場取得等による設備投資と借入金の返済に充当

(単位:億円)

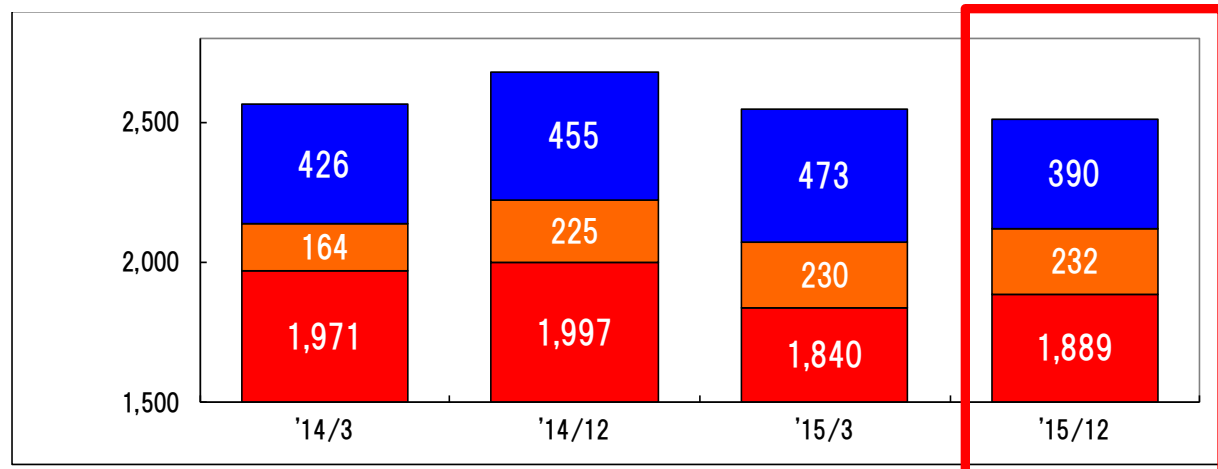
	2016年3月期 第3四半期	2015年3月期 第3四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	193	186	7
・減価償却費(のれん償却含む)	126	125	1
・運転資本	▲ 64	▲ 163	99
・法人税等の支払額	▲ 41	▲ 49	7
・その他	▲ 44	▲ 46	1
営業活動によるCF	169	52	117
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 130	▲ 117	▲ 13
・その他	▲ 40	▲ 3	▲ 36
投資活動によるCF	▲ 171	▲ 121	▲ 49
・短期借入金の増減額	▲ 13	134	▲ 148
・長期借入金の増減額	▲ 16	▲ 37	20
・その他	▲ 21	▲ 7	▲ 14
財務活動によるCF	▲ 52	89	▲ 141

連結借入金・純金利負担

◆借入金は前年同期比、前期末比で減少

(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



前期末
比増減

▲83

+1

+48

借入金合計	2,561	2,677	2,543	2,510	▲33
短期借入金	1,278	1,425	1,399	1,452	+53
長期借入金	1,282	1,251	1,143	1,057	▲86
短期借入金平均利率	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%	▲0.0%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%	▲0.0%
純金利負担	16.9	12.4	16.2	11.9	
対営業利益純金利負担率	12%	7%	9%	7%	
支払利息	32.7	22.2	30.3	20.2	
受取利息	4.7	2.7	3.9	2.4	
受取配当金	11.0	6.9	10.1	5.8	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@109.45(9月末)	@120.55(12月末)	@119.96(9月末)	

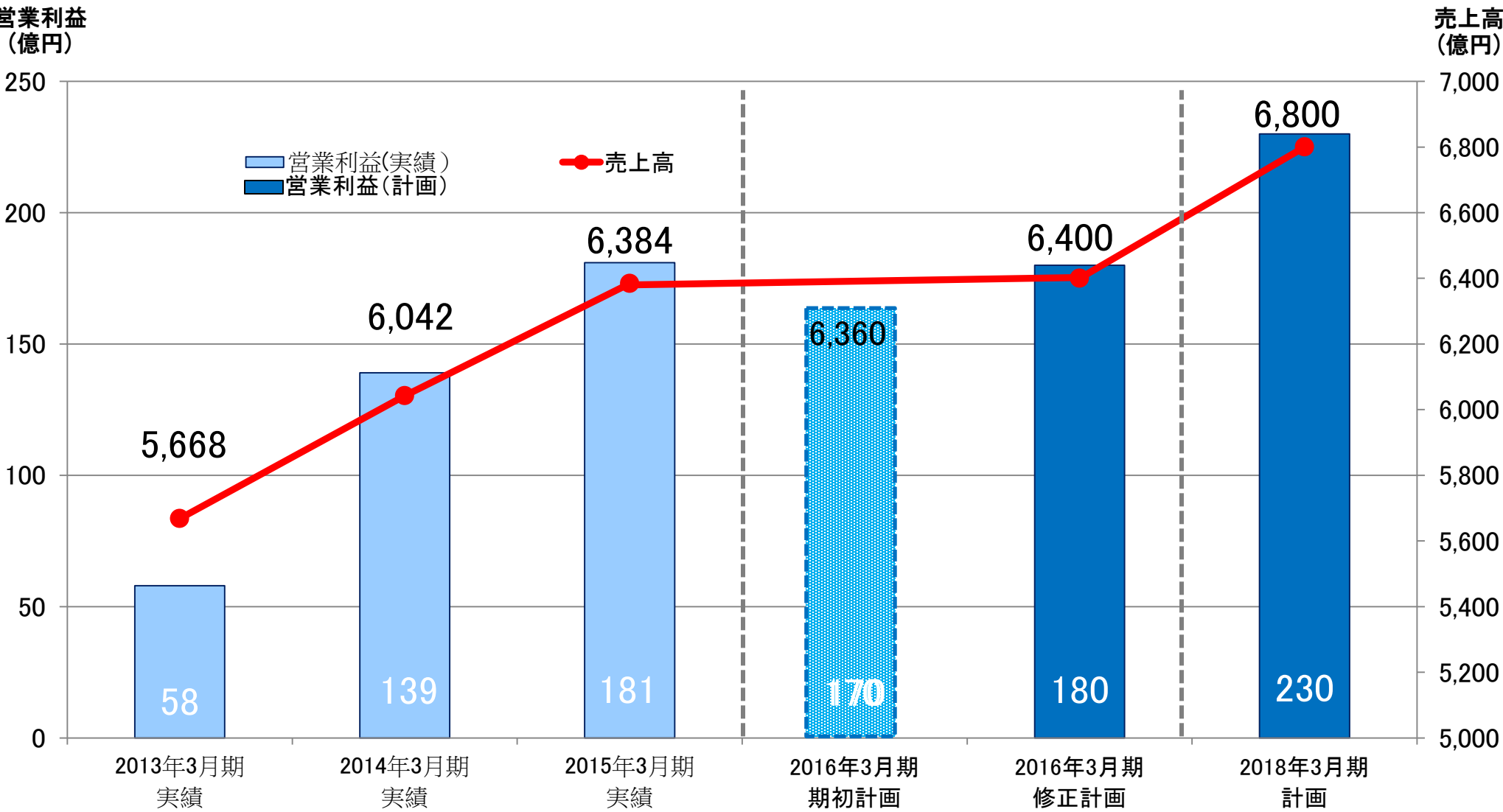
※為替レート換算による影響額

前期末比 ▲11億円

前年同期比 +20億円



◆中計初年度は、ほぼ順調に推移



(参考)個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2016年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	2,774		2,715		58	2.2
売上総利益	531	19.1	514	19.0	16	3.1
販売費・一般管理費	479		481		▲1	
営業利益	51	1.9	33	1.2	17	53.1
営業外収益	17		34		▲16	
営業外費用	18		22		▲4	
経常利益	51	1.9	45	1.7	6	13.6
特別利益	14		0		13	
特別損失	3		3		0	
税引前当期純利益	62	2.2	42	1.6	19	45.6
法人税等	9		3		6	
法人税等調整額	9		10		▲0	
当期純利益	42	1.5	28	1.1	13	47.8

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加	約3億円
管理費減少	約1億円
広告宣伝費減少	約3億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)	
- 投資有価証券売却益	約14億円
- 減損損失	約2億円

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2016年2月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

